

山田地区地域活性化計画

2019年度～2028年度

2019年3月29日
山田地区連合自治会

山田地区地域活性化計画

目次

1. 事業の目的と背景	
1) 計画の策定主旨	・・・ 2
2) 計画期間	・・・ 3
3) 活性化計画策定までの流れ	・・・ 3
4) 体制づくり	・・・ 4
2. 山田地区地域活性化計画	
1) 活性化計画	・・・ 5
2) 目的	・・・ 5
3) キャッチフレーズ	・・・ 5
4) 目標	・・・ 5
5) 重点戦略・具体的な事業、地域資源	・・・ 6
3. 重点戦略計画	
重点戦略① 農業を楽しむ町「くらしの豊かさを感じる山田」	・・・ 7
重点戦略② すてきなものがある町「山田の再発見」	・・・ 9
重点戦略③ 自然や歴史文化に、あふれる町「誇れる山田」	・・・ 11
重点戦略④ 住民の顔がみえる町「山田の声」	・・・ 14
重点戦略⑤ 未来を形づくり「山田の種」	・・・ 16
4. 山田地区地域活性化計画策定スキーム	
1) 策定スキーム	・・・ 18
2) 事業実施のP D C A	・・・ 19
3) 運営組織図	・・・ 20

1. 事業の目的と背景

1. 計画の策定主旨

山田町は姫路市の最北東部に位置し、人口約2,800人、世帯数約1,100世帯の田畑と緑に囲まれたのどかな田園地帯です。

明治以来、神崎郡山田村だった山田町は昭和29年、兵庫県から町村合併計画を示され、論議の結果、昭和31年に船津村、豊富村と3カ村が合併し「神南村」が誕生しました。町名の由来は神崎郡の南部に位置していることから決定。姫路市から昭和32年合併の申し入れがあり、翌年に合併しました。

古くは「播磨風土記」に山田町一帯は多陀の里と呼ばれていました。

また、戦国武将の後藤又兵衛生誕の地であることも含め、このあたり一帯には、弥生時代の遺跡や古墳、白鳳時代の寺院跡、条里制の遺構などが残されており、訪れた人々を魅了しています。

地域内には農業振興センターもあり、緑の生産基地および農業振興の拠点として、地域の主産業である農業に関連した幅広い事業を展開しています。

このように山田地区は、多くの地域資源に恵まれた地域です。しかし現状では、それらの恵まれた地域資源を生かしきれしていません。また、少子・高齢化や人口減少は確実に進行しており、深刻な状況です。その状況を打開すべく、地域住民が立ち上がり、人口減少に歯止めを掛け、様々な地域資源を活用した、地域活性化に取り組むために「山田地区地域活性化計画」を策定し、実施していきます。

山田地区の人口動態

		平成20年	平成25年	平成30年
世帯数	(世帯)	989	1038	1066
人口	(人)	3115	2972	2755
高齢者数	(人)	722	774	864
高齢化率	(%)	23.2	26.0	31.4
年少者数	(人)	466	413	289
年少者率	(%)	15.0	13.9	10.5
人口減少率(過去10年間)				-11.6%

※住民基本台帳人口による数値(各年3月末時点)
姫路市統計情報
※高齢者は65歳以上の数
※年少者は14歳以下の数

1. 事業の目的と背景

2. 計画期間

2019年度～2028年度

(10か年計画)

地域の課題

若年層減

年少者率（平成30年）
10.5%

進む高齢化

高齢化率（平成30年）
31.4%

地域活動力の低下

人口減少率（過去10年間）
▲11.6%

3. 活性化計画策定までの流れ

山田地区では、人口減少と高齢化が著しい現状の中、将来的にコミュニティが存続できるように、数年前より検討・協議を重ね、平成30年度に核となるプロジェクトチームメンバーを各自治会より選任し、「山田地区地域活性化計画実行委員会」を発足しました。アンケートや意見交換を重ねることにより地域の意見を幅広く聞きながら、地域資源を体系的に整理するとともに、「姫路市がんばる地域応援事業」を活用して、神戸新聞社や甲南大学などの専門的なアドバイスを受けながら住民主体の計画として「山田地区活性化計画」を策定しました。

1. 事業の目的と背景

4. 体制づくり

山田地区の理想的な将来像を実現するには、地域住民、事業者（農業を含む民間事業者等）、農業振興センターなどの地域関係者が主体的立場に立ち、活動する必要があります。

また、活性化計画の実現に向け、2019年度以降においては、兵庫県などの補助事業をできるだけ活用していきます。

山田地区地域活性化計画実行委員会

- ・ 牧野地区
- ・ 西山田地区
- ・ 南山田地区
- ・ 北山田地区
- ・ 東多田地区
- ・ 西多田地区
- ・ 白鷺タウン

各地区自治会長

分科会

幹事会
(各部会のリーダーで構成)

農業・自然
部会

イベント・講座
部会

情報発信部会

連携

実施体制
の構築

連携

事業者

関係団体

連携

1. 活性化計画

山田地区地域活性化計画

地域内各自治会より選抜されたメンバーによる分科会を中心に、地域活性化の各種事業を推進していきます。

2. 目的

山田地区は姫路市の最北東部に位置し、人口約2,800人、世帯数約900世帯の田畑と緑に囲まれたのどかな田園地帯です。

また、戦国武将の後藤又兵衛生誕の地であることも含め、史跡や古墳、多くの自然が点在し訪れた人々を魅了しています。そのような恵まれた環境の中、育まれた人情溢れる地域を次世代に引き継ぐため、みんなで楽しんでできる農業への取り組みやイベント等を行っていきます。

まずは、ここに住む人たちが積極的に活動に関わることで、「ふるさと愛」、「一体感」を高め、若者の参画を呼び込み、次世代を担う子どもたちが「地域愛」を高める活動に取り組んでもらえるようにします。

そして、我々が誇りとする「山田地区」を積極的に地域外へ発信し、観光客を呼び込み、人の交流と地域経済の循環を生み出すことで雇用創出や主産業である農業の発展を目指し、地域のさらなる活性化につなげていきます。

3. キャッチフレーズ

山田地区の共通認識を高める目的として、キャッチフレーズを決めました。

自然と人情、みんなで拓く山田の未来

4. 目標

地域活性化のための「3つの目標」

1. 農業の多様な発展と若者の呼び込み
2. イベント実施・PRによる交流人口の増加
3. 地域の核となる人材の育成

2.山田地区地域活性化計画

5.重点戦略・具体的な事業、地域資源

重点戦略

具体的な事業、地域資源

①農業を楽しむ町 「くらしの豊かさを感じる山田」

すいか、姫路ねぎ、各種野菜づくり（白菜、大根他）、山田の米

農業を通じて、地域連携を図るため、自らが楽しむ農業を展開していきます。
また、相互に生産技術の情報共有を行い、次世代の参入を促すためにも、先行して様々な活動に取り組む姿を実践していきます。

②すてきなものがある町 「山田の再発見」

地元イベントへの出展（地産地消フェア、農林漁業祭など）、販売方法、販売場所、関係各所との連携、交流など

地元の主産業である農業のブランド化を推進するために、情報収集や販売方法を検証し地域活性化に取り組んでいきます。その中で山田のすばらしい地域資源を再発見していきます。

③自然や歴史文化に、あふれる町 「誇れる山田」

ウォーキング大会、史跡と自然めぐりウォーク、若年層向けイベント実施、高齢者との交流と次世代・幼児交流の計画、藤ノ木山自然公園・牧野キャンプ場の活用、山田地区全体の参加型イベント、

地域には多くの自然や体験ができる施設があります。また、史跡や古墳等が数多く点在し、住民の誇りとして、愛着を持って地域に関わっていける機会を創出します。

④住民の顔がみえる町 「山田の声」

SNSの活用、チラシ（フライヤー）の制作、グーグルマップ、先進地域の視察、ホームページの作成

山田地区の情報発信を住民みんなで協力して実施していくことで、地域に関心を持ってもらい、交流人口の増加や地域活性化へと繋げていきます。また、町内の情報共有を図ることにより、住民同士の連携基盤を強化していきます。

⑤未来を形づくる 「山田の種」

藤ノ木山自然公園、牧野キャンプ場、後藤又兵衛、又兵衛田、農業振興センターを活用したイベント実施

各部会や地域の行事と連携し、地域のPR方法を協力して考案してきます。

重点戦略①

農業を楽しむ町 「くらしの豊かさを感じる山田」

農業生産グループの組織化

農業を通じて、地域連携を図るため、自らが楽しむ農業を展開していきます。また、相互に生産技術の情報共有を行い、次世代の参入を促すためにも、先行して様々な活動に取り組む姿を実践していきます。

具体的な事業、地域資源

すいか

姫路ねぎ

各種野菜づくり（白菜、大根他）

山田の米

活用できる地域資源の現状と取り組み

①すいか

昔、山田地区の特産品であった「すいか」の栽培を活性化させて、再び地域の特産品として生産していくための方法を検討していきます。

今後の取り組みとして、地元にある農業振興センターと栽培についての研究、協力をしたり、他の栽培地域との情報交流を行い生産技術の向上を目指します。

目標として、すいか生産を軌道にのせ、若者の参入を呼び込み、ブランド化を目指します。また、すいかに関連したイベントの実施や品評会等を行っていきます。

②姫路ねぎ

地場野菜を活性化に活用するため、姫路の伝統野菜である「ネギ」の栽培を活性化させていきます。そのため有志によるグループ作りを行い、情報共有を行います。JAの規格にあった品質の産品を育成し流通先の拡大や特産品化を進めていきます。

目標として、規格品の安定的な生産や品質の向上、若者の参画による生産量の拡大を目指します。また、加工商品の開発や郷土料理への活用も進めていきます。

③各種野菜づくり（白菜、大根他）

現状、各農家の栽培している各種野菜を通じて地域の交流を図り、農業生産の拡大を進めます。情報共有や共同での勉強会を実施し、現状の生産体制を一步前進させます。

目標として、地域の特性を生かした新たな地場野菜の開発、地域外からの貸農園・オーナー制度の設立、地域内での新しい農業の担い手の育成・移住者による農業への参画、雇用の創出と休耕田の解消など、地域の農業基盤の底上げを目指します。

3 . 重点戦略計画

④山田の米

山田町は米の生産が盛んに行われておりますが、現状の生産体制の再認識し、地域の営農組合や農業振興センターとの連携強化を図り、山田の強みとなる産業の更なる強化を目指します。

目標として、品質向上や、生産面積の拡大等を促し、現状でも強みのある山田の米のブランド力を確固たるものへと飛躍させていき、若者の農業への参画や休耕田の解消を目指します。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2020年3月)	3年後 (~2022年3月)	5年後 (~2024年3月)	10年後 (~2029年3月)
すいか	<ul style="list-style-type: none"> ●農業振興センターと有志栽培者で生産 ●生産方法、結果を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者拡大～品評会の実施 ●流通先や品質の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●若者の農業への参画拡大 ●温室すいかの生産計画模索 	<ul style="list-style-type: none"> ●特産品化 ●すいかサミットの開催
姫路ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ●有志による生産者の募集 ●JAの規格に合う栽培方法の模索 	<ul style="list-style-type: none"> ●生産者拡大、規格品の生産拡大 ●流通先や品質の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●若者の農業への参画拡大 ●更なる生産者拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●特産品化 ●加工商品の開発
各種野菜 (白菜、大根等)	<ul style="list-style-type: none"> ●生産体制を一步前進 ●情報共有を行い生産体制の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ●黒豆や山芋等核となる製品の模索 ●休耕田の活用方法を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな特産品への試行 ●生産体制や地域性を加味し検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業基盤の底上げ ●若者の参入を含めた維持拡大
山田の米	<ul style="list-style-type: none"> ●営農組合と連携強化 ●各生産農家の情報共有の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド化の推進 ●休耕田の活用を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●品質向上を生産拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド化

重点戦略②

すてきなものがある町 「山田の再発見」

地元農産物の販売方法を検討

地元の主産業である農業のブランド化を推進するために、情報収集や販売方法を検証し地域活性化に取り組んでいきます。

その中で山田のすばらしい地域資源を再発見していきます。

地域資源

地元イベントへの出展

販売方法

販売場所

関係各所との連携

活用できる地域資源の現状と取り組み

①地元イベントへの出展

姫路市内で行われている「地産地消フェア」、「農林漁業祭」等のイベントに出展するための組織体制作りや、商材の収集、販売金額の精算に至るまでの流れを具体的に調査・研究し、実際に出展を行います。地域の商品と山田の良い所をPRする機会としても活用します。

目標として、出店エリアの拡大や地域活性化の別の事業との組み合わせを行い、販売方法の確立や商品のブランド化を目指します。また地域内で主体的な販売イベントの実現や定例化を行っていきます。

②販売方法

先行で町内の一部のグループが実施している事例を参考に、販売方法を充実させていきます。販売商品の構成や規格（一袋あたりの数量やカット方法等）を試行し、より売りやすい商品化の方法を模索していきます。

目標として、販売体制を町内で組織化し、購入者側の要望を取り入れられて、購買意欲が高まる商品の販売方法を確立します。

③販売場所

地元で生産した農産物を販売できる場所の拡大を図ります。先行グループが実施している事例を参考に、販売場所の検討や工夫、場所、時期や来客層による売れ筋商品の違いなどを調査、ヒアリングを行い生産体制にも反映させます。

目標として、定期的に販売ができる場所の拡充や山田の農産物のファンづくりを行い、ブランド化を推進していきます。流通量の拡大を受けて、地域の農業の活性化へと繋がっていきます。

3 . 重点戦略計画

④関係各所との連携

外部視点を取り入れた研修会の実施や、県、市の担当課との連携強化を図ります。新たな地域資源の発見を通じて、対外的に情報発信を積極的に行っていきます。

目標として、関連行政や企業との連携や参入を強化し地域全体の活性化に活用していきます。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2020年3月)	3年後 (~2022年3月)	5年後 (~2024年3月)	10年後 (~2029年3月)
地元イベントへの出展	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際に出展を行う。 ● 出展体制、スケジュール等の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ● 出展イベントの定例化 ● 新規出展先の模索 	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的イベントの実施（時期や内容等を検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな地域活性化事業の実施
販売方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 購入者の要望を聞く ● 商品構成や規格等を模索 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売体制の組織化を模索 ● 要望の継続調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売体制の整備 ● 特産品を使った商品の試作 	<ul style="list-style-type: none"> ● 柔軟に発展
販売場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売場所の検討や工夫 ● 販売場所による売れ筋調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的な販売場所の確保 ● 時期や来客層による売れ筋調査 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売場所の拡大 ● ブランド化推進の連動と模索 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランド化により流通拡大
関係各所との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部視点を入れた研修会等実施 ● 県や市との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源の再発見、発掘 ● 外部への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業との連携模索 ● 行政との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域全体の活性化

重点戦略③

自然や歴史文化に、あふれる町 「誇れる山田」

地域には多くの自然や体験施設があります。史跡や古墳等も数多く点在し、住民が地域の価値あるものに、誇りと愛着を持って地域に関わっていける機会を創出します。

地域資源

ウォーキング大会

史跡と自然めぐりウォーク

若年層向けイベント

高齢者との交流と次世代・幼児交流の計画

藤ノ木山自然公園・牧野キャンプ場の活用

山田地区全体の参加イベント

活用できる地域資源の現状と取り組み

①ウォーキング大会

毎年恒例のウォーキング大会を拡充して地域活性化のイベントの軸とします。

拡充するための事業計画や問題点を抽出し、よりよいイベントに進化させます。その中で、協力していただける地域住民の組織化や講師を招聘して説明ガイドの育成事業を実施していきます。また、地元小学校との連携を通じて様々な形で事業に参画していただきます。販売を予定している地元事業者の商品の品ぞろえも充実させる予定です。

目標として、地域活性化活動に参加して頂く事により強制参加への意識を切り換えてもらい、町内住民対象の本イベントを地域外からの参加を呼び込むことで交流人口を増やし、拡大化していきます。

②史跡と自然めぐりウォーク

町内にある史跡や自然環境を活用したウォークイベントを季節に応じて年5回程度実施します。コースの選定やコースマップの作成等を行い、山田地区を訪れたことがある既存ウォーカーを取込みます。ウォーキング大会同様、説明ガイドの育成事業を実施するとともに新たな町のイベントとして実施し、定例化を図ります。

目標として、新規の山田町への交流人口の増加と地域の史跡や自然のPRを充実していきます。また、講師の育成事業に伴い地元への愛着と誇りを持った住民が増えていく事に繋がります。

③若年層向けのイベント

将来の地域活性化の主役となる若者層へ事業の参加を促すために、自らが参画したいと思える事業の実施を計画します。内容や実施体制など、参加しやすいことを前提に計画し、若者に事業への参加を呼びかけます。

3 . 重点戦略計画

④高齢者との交流と次世代・幼児交流の計画

少子高齢化が進む地域において、世代間の交流を深め、コミュニティの活性化に繋がる事業計画を検討します。試行的に世代間交流イベントを実施します。

目標として、世代間交流イベント実施による地域交流全体の活性化を促します。

⑤藤ノ木山自然公園、牧野キャンプ場の活用

町内にある既存施設の利用者拡大を目標にフリーマーケットやバーベキューなど交流人口の増加が見込めるイベントを開催し、山田地区の認知度向上や活性化に活用します。

目標として、計画したイベントの定例化や既存イベントの拡充を行い、利用者の増加を目指します。

⑥山田地区全体の参加型イベント

現在、各地区で行われている夏祭り、秋祭り、運動会などの町内イベントを町内全域で取り組めるのかを検討し、地域交流の促進を目指します。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2020年3月)	3年後 (~2022年3月)	5年後 (~2024年3月)	10年後 (~2029年3月)
ウォーキング大会	<ul style="list-style-type: none"> ●開催時期や規模等を検討 ●児童の学びと発表体験の充実 ●ボランティアの育成、勉強会の実施 ●出展品目や出展者の拡大 ●併催イベントの検討、予算確保 ●にぎわい要素の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材バンクを組織化 ●児童による説明文の立案 ●講師の人数拡大と質の向上 ●特産品の調理加工販売 ●強制参加への意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> ●エリア外への参加拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●定例イベントとして実施
史跡と自然めぐりウォーク	<ul style="list-style-type: none"> ●年5回開催に向けて準備 ●講師を招いて説明ガイドを育成 ●既存ウォーカーの取込み ●実施体制の組織化を模索 ●コースマップの作成を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●定例イベントとして開催 ●説明ガイドの育成 ●新規参加者の呼び込み ●実施体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知度の相乗効果で史跡と自然のPR ●講師の人数拡大 ●エリア外へのPRと参加者の拡大 ●実施体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活性化イベントとして定着 ●交流人口の増加 ●実施体制の拡大

3 . 重点戦略計画

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2020年3月)	3年後 (~2022年3月)	5年後 (~2024年3月)	10年後 (~2029年3月)
若年層向けイベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●実施内容検討 ●意見集約 ●参加メンバーの組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規のイベント計画立案 ●婚活イベントの実施を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画に基づく新規イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の若者の交流の活性化
高齢者との交流と次世代・幼児交流の計画	<ul style="list-style-type: none"> ●組織作り ●計画案検討 ●問題点の抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ●試行的イベントの実施 ●参加者の意見集約、検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●本格的な世代間交流イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流の活性化
藤ノ木山自然公園・牧野キャンプ場の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●施設を活用したイベントを計画 フリーマーケット バーベキュー等 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画したイベントの定例化 ●事業内容の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の利用者拡大、認知の向上 ●特産品を活用したイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活性化のイベントとして定着
山田地区全体の参加型イベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●各地区で行なわれている夏祭、秋祭、運動会等を共同で実施できないか検討 ●組織化、情報共有、問題点の抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ●合同イベントの実施 ●地域交流組織の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流の活性化

重点戦略④

住民の顔が見える町 「山田の声」

山田地区の情報発信を住民みんなで協力して実施していくことで、地域に関心を持ってもらい、交流人口の増加や地域活性化へと繋げていきます。

また、町内の情報共有を図ることにより、住民同士の連携基盤を強化していきます。

地域資源

SNSの活用

チラシ（フライヤー）の作成

グーグルマップ

先進地域の視察

ホームページの作成

活用できる地域資源の現状と取り組み

① SNSの活用（フェイスブック等SNSアカウントの登録）

地域の情報発信の方法として、SNSを中心に活用します。フェイスブックやツイッターに山田地区としての公式アカウントを取得し、情報発信します。また、SNSの講習会を実施し町内で情報発信ができる人材を育成します。

目標として、情報発信部会のメンバー以外でも気軽にSNSにPR内容を投稿して、町の地域資源の再発見や盛り上げを町民全体で行える体制を目指します。

② チラシ（フライヤー）の制作

地域資源の魅力を観光に来られた地域外の人へPRするためのツールとして、制作します。制作の過程で地域の事を勉強し、今まで知らなかった地域の魅力を再発見することにより、今後の情報発信活動の基礎的な力を鍛えます。

目標として、交流人口が増加するような魅力のあるツールを完成させ、実際に活用していきます。

③ グーグルマップ

地域を訪問する時に、比較的多く活用されるグーグルマップに地域資源の情報を送ることによりグーグルマップに実際に反映される事があり、観光客の利便性が高まります。

投稿によりグーグルマップ上の拠点の記載が増えていき、地域の情報が広く拡散していく事を目標とします。

④ 先進地域の視察

2019年には先進地域の事例を学ぶため、視察研修を実施しました。

- ・ 神楽（しぐら）自治振興会視察研修（3/25）

今後の活性化活動のために、参考となるような先進地域の情報集め、実際に訪問し、有用なものを取り入れていけるようにします。

3 . 重点戦略計画

⑤ホームページの作成

地域活性化活動を行う上での情報発信の方法として、ホームページの作成を模索いたします。ホームページを制作した後の事を考え、サーバーの維持費用やメンテナンスの費用、また、更新を担当するメンバー選定などの課題があり、検討が必要です。有効な情報発信の手段ですが、体制をきっちりと決めてから取りかからないと後になって問題が起きる可能性があります。

目標としては、課題を解決して後、ホームページを完成させ情報発信の強力な手法として活用していくことです。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2020年3月)	3年後 (~2022年3月)	5年後 (~2024年3月)	10年後 (~2029年3月)
SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民から情報の集まる仕組みを模索 ● 情報発信ができる住民の育成や研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信の仕組みを確立 ● 住民参加型の情報発信開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信者の拡大 ● フォロワーの増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民各自で地域のPRを実施 ● 地域の活性化に寄与
チラシ（フライヤー）の制作	<ul style="list-style-type: none"> ● デザイン・予算の確保 ● チラシの仕様や活用方法について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● ツールを活用したPRの実践 ● 活用方法に基づくPR 	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容の見直し ● 改訂版の制作予算捻出 	<ul style="list-style-type: none"> ● ツールとして確立 ● 交流人口増加に寄与
グーグルマップ	<ul style="list-style-type: none"> ● スポット情報の収集 ● グーグルへの情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● グーグルマップ内の充実した地域情報の整備
先進地域の視察	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問先の情報収集 ● 住民への情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の課題に応じた先進事例の情報収集 ● 地域活性化に活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題に応じた視察先への訪問と交流 ● 情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山田が先進地域となり、視察の受け入れ先となる ● 各視察の受け入れ
ホームページの作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作に係る、色々な内容を検討 ● 発信する情報の方向性を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● ランニングコストの捻出方法を模索 ● 情報・素材の収集、構成案の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立ち上げ検討 ● 内容が固まれば制作着手 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページを地域活性化に活用 ● 情報発信の基盤とする

重点戦略⑤

未来を形づくる 「山田の種」

各部会や地域の行事と連動し、地域のPR方法を協力して考案してきます。

地域資源

藤ノ木山自然公園

牧野キャンプ場

後藤又兵衛

又兵衛田

農業振興センター活用イベント

活用できる地域資源の現状と取り組み

①藤ノ木山自然公園・牧野キャンプ場

施設を活用したウォーキング等の企画を実施し、情報発信に活用します。

②後藤又兵衛

後藤又兵衛顕彰会との協力により事業実施等を模索していきます。

③又兵衛田

後藤又兵衛ゆかりの田で生産された酒米を活用し地元酒蔵（田中酒造）の協力のもとお酒の醸造と販売を行います。また山田錦を又兵衛田で生産するなど、田に由来することを活用し地域活性化の資源とします。

④農業振興センター活用イベント

地元の主産業である農業をベースに、新しい特産品の開発や、生産技術の向上、敷地内のスペースを活用したイベントの実施などを検討していきます。

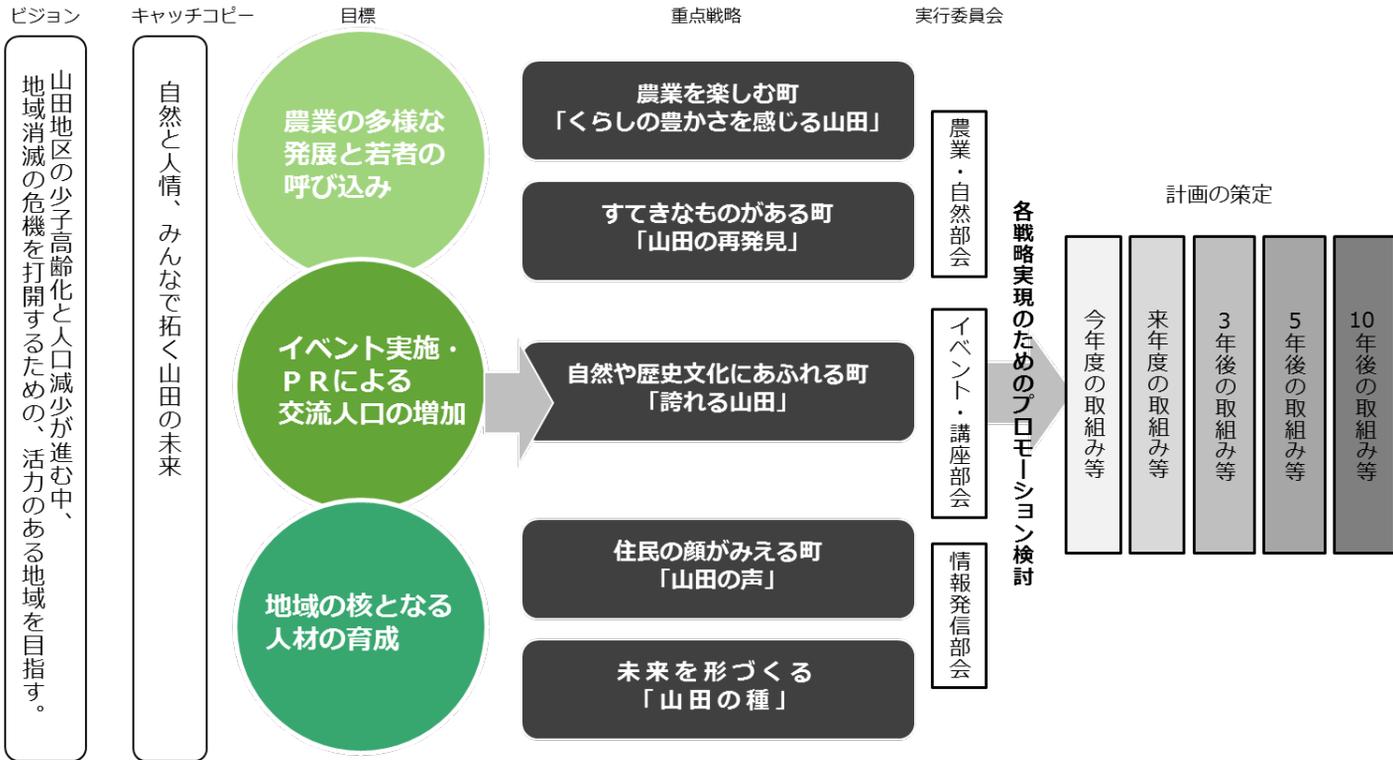
3. 重点戦略計画

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
藤ノ木山自然公園 牧野キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォーキングイベント等の企画 	<ul style="list-style-type: none"> ●天体観測やキャンプファイヤーの企画を検討 ●活用方法の促進、拡大を検討 ●情報発信による利用者の拡大を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●試行的イベントの実施 ●イベントの情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●定例イベントの実施 ●活用促進、拡大 ●交流人口の増加
後藤又兵衛	<ul style="list-style-type: none"> ●福田寺で又兵衛祭の開催を検討 ●顕彰会との事業協力を模索 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の拡大 ●後藤又兵衛を活用した地域PRの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●イメージPRの実施 ●情報発信の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●後藤又兵衛と地域の関連イメージの定着
又兵衛田	<ul style="list-style-type: none"> ●山田錦の栽培の試作の実施 ●活用計画を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●オリジナル酒の販売、宣伝 ●又兵衛田を活用した地域PRを検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●又兵衛田を活用した地域PRの実施 ●派生事業の展開を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブランド化 ●その他、特産品の開発・販売
農業振興センターの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的なイベント案を検討 ●事業実施に向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント実施 ●イベント内容の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント拡大 ●共催イベントの実施を模索 	<ul style="list-style-type: none"> ●交流人口の増加 ●イベントの定例化

4.山田地区活域活性化計画策定スキーム

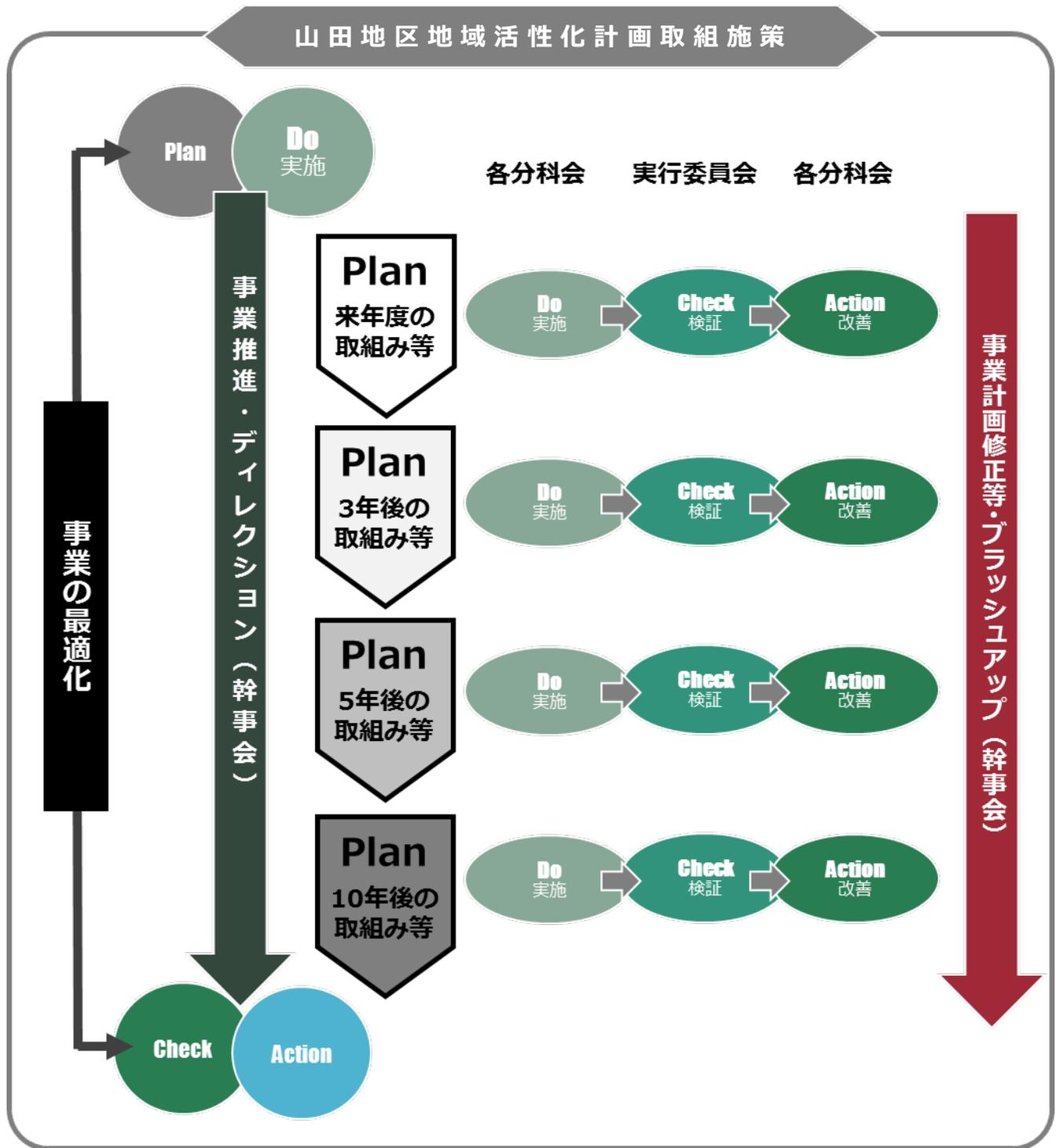
1) 策定スキーム



4.山田地区地域活性化計画策定スキーム

2) 事業実施のPDCA

一定のサイクルで、Plan（計画）-Do（実施）-Check（評価）-Action（改善）により継続的な事業実施を目指し、効率性・効果性を図りながら施策の最適化を考えて行きます。



4.山田地区地域活性化計画策定スキーム

3) 運営組織図

山田地区地域活性化計画実行委員会

代表: 山口 俊貴 連合自治会長

推進リーダー: 上田 倫範 会長

農業・自然部会

	メンバー	地域
◎	谷口 大三	北山田
	山口 俊貴	牧野
	三山 茂夫	佐用
	福岡 溜	南山田
	坪田 佳三	東多田
	松岡 正彦	西山田
	山口 浩三	南山田
	稲積 文隆	西山田
	上田 重信	東多田
	雲丹亀 幸三	西山田
	大谷 泰弘	南山田
	山口 義明	南山田
	松浦 耕一	牧野
	大藤 隆彦	北山田
	坪田 進	東多田
	弓岡 義之	牧野
	福永 信幸	西多田
	大藤 隆博	北山田
	井上 至	北山田
	後藤 三久	西多田

イベント・講座部会

	メンバー	地域
◎	植野 勝義	南山田
	坪田 義憲	東多田
	坪田 保	西山田
	山内 豊	白鷺タウン
	山口 陽大	牧野
	後藤 三久	西多田
	小藪 敏雄	白鷺タウン
	福永 孝成	西多田
	原田 浩	白鷺タウン
	稲積 初美	西山田
	福岡 加奈代	南山田
	北包括	
	松岡 弥寿子	西山田
	雲丹亀 いずみ	西山田
	大藤 祥博	北山田
	大谷 一司	南山田
	永田 詠子	西山田
	大豊 英利	白鷺タウン

情報発信部会

	メンバー	地域
◎	稲積 照義	西山田
	稲積 太郎	西山田
	松岡 孔明	西山田
	紀 有文	西山田
	谷川 博昭	西多田
	山口 嘉雄	南山田
	末戸 亮二	西山田
	後藤 矢住子	東多田
	井上 拓也	北山田
	雲丹亀 昇太郎	西山田
	小林 弘和	西多田

◎部会リーダー